

# 月刊 工連 ニュース

OKINAWA INDUSTRIAL FEDERATION NEWS



沖縄県産品マーク

広がる可能性で時代を投影する。

- 第38回沖縄の産業まつり 第2回実行委員会
- 「元気カンパニー」(有) 渡具知
- ボイスシリーズ  
沖縄におけるものづくり産業の  
更なる成長に期待

12 2014  
月号

Vol.601



# 沖縄ガス ショールーム

沖縄ガス ショールーム

ゆ〜くる

# YOU-KURU



## 1F 展示スペース

- ガスコンロ展示スペース ●システムキッチンコーナー ●ウィズガスハウス ●比較・実演コーナー
- キッズスペース&授乳室 ●ミストサウナ体験コーナー ●「涼厨」ブース ●創エネ・省エネコーナー

## 2F

クッキングスタジオ・セミナー室・会議室

広々スペースに最新の商品を随時展示中。  
ガスのある快適な暮らしをご提案いたします！

クッキングスタジオでは  
「お料理教室」を随時開催中。



**パナソニック Panasonic**

**ワカラスタンダード**

**TOTO**

**LIXIL**

「ゆ〜くる」へのお問合せはこちら

沖縄ガス ショールーム

ゆ〜くる

# YOU-KURU

開館時間: 10:00~17:00 休日: 年末年始・旧盆(ウ〜ウイ)

☎ (098) **863-7750**

(ショールーム)

沖縄ガス

検索



ウズガス 街に暮らしに ちゅらエネルギー



沖縄県那覇市西3-13-2

TEL: 098-863-7730 (代表)

contents

- 2p** voice vol.103  
**沖縄におけるものづくり産業の  
更なる成長に期待**  
内閣府沖縄総合事務局 経済産業部長 牧野守邦
- 3p** **第38回沖縄の産業まつり 第2回実行委員会**
- 4・5p** キラリ! 元気カンパニー「沖縄の北極星 ニュファブシ」  
**「地域とともによいことを」  
まちとむらをつなぐ取り組み**  
有限会社渡具知
- 6p** ちばりよ～県産品  
**沖縄の伝統野菜クワンソウで地域貢献**  
農業生産法人 株式会社今帰仁ざまみファーム
- 7p** 新うちな～むん  
**三線の常識を覆す独自の材質とデザイン**  
新城工作所
- 8・9p** **高校生美ら産フェア  
第18回沖縄県産業教育フェア**  
沖縄県教育委員会
- 10p** **JAS法食品表示講習会**  
沖縄県農林水産部
- 11p** **改正後のパートタイム労働法の概要**  
沖縄労働局
- 12p** 琉球大学工学部後援会からのお知らせ  
**既存コンクリートブロック塀の  
構造安全性に関する調査研究**
- 13p** 沖縄職業能力開発大学校  
**2014沖縄ポリテクビジョン開催報告**  
テーマ:「沖縄発 ものづくり・人づくり」
- 14p** 沖縄高専だより  
**「第10回沖縄高専フォーラム・情報交換会・  
技術相談会」を開催しました**
- 15p** 工業技術センターだより  
**あなたの車が福祉車両に!?**  
— 車いす乗降用後付けスローパーの開発 —
- 16p** トピックス  
**沖工連青年部会会員募集  
会員募集のご案内  
会員の皆様へ**  
  
**経営改善の最短距離  
経営改善計画書を作ろう!**

2014 November 11 工連日誌

- 5日(水)** 11月定例執行部会  
●時間/12:00~13:30 ●場所/工連会議室
- 13日(木)** 第9回学校と産業界の交流事業  
●時間/14:55~15:45 ●場所/沖縄県立本部高等学校
- 19日(水)** 執行部と牧野経済産業部長との「製造業振興に関する意見交換会」  
●時間/12:30~14:00 ●場所/工連会議室
- 25日(火)** 第38回沖縄の産業まつり第2回実行委員会  
●時間/14:00~15:00 ●場所/ANAクラウンプラザホテル沖縄ハーバービュー
- 28日(金)** 工連青年部平成26年度忘年会  
●時間/18:30~20:00 ●場所/ホテル日航那覇グランドキャッセル

特許等取得活用支援事業

# 知財総合支援窓口

中小企業など知的財産の有効活用をアドバイスします。

## ワンストップサービス

秘密厳守

相談無料

- 知財専門家が窓口で常駐
- 知財専門家を派遣
- 知財ニーズの発掘
- 知財に関する支援策の紹介
- インターネット出願を支援

個別対応のため予約が必要です



**0570-082100** (有料)

窓口運営時間...8:30~17:15 (月~金) ※窓口支援担当者が常駐しています。

※電話、インターネットでお申込ください。  
※ご相談頂いた内容は守秘義務により保護されます。

■内閣府沖縄総合事務局委託事業 /  
実施：一般社団法人沖縄県発明協会

☎ **098-921-2666**

公益社団法人沖縄県工業連合会は「沖縄の産業まつり」や「県産品奨励月間」などの活動を通して、沖縄経済の自立化を目指しています。  
●工連ニュースへのご意見ご要望をお待ちしております。Eメールでもご参加ください。  
E-mail/info@okikouren.or.jp ホームページ/http://www.okikouren.or.jp

発行所 / 公益社団法人 沖縄県工業連合会  
那覇市宇小塚1831-1 沖縄産業支援センター6F  
電話 (098) 859-6191 FAX (098) 859-6193  
編集・印刷 / 有限会社サン印刷 電話 (098) 889-3679

# 沖縄におけるものづくり産業の 更なる成長に期待



内閣府沖縄総合事務局  
経済産業部長

牧野 守邦

きた「ちゃんぷる」精神の発揮が、今後の沖縄の企業経営にも求められているのかもしれない。

沖縄総合事務局経済産業部におきましては、このような認識の下に、「沖縄成長産業戦略」に沿って、ものづくり産業の「創業期」「成長期」「成熟期」といった事業の発展段階に合わせ、予算、税制、投融資制度等の支援策を、起業、新事業展開、海外展開等とも有機的に組み合わせつつ、総合的、戦略的に展開し、更なる成長と発展に貢献してまいりたいと思えます。特に、沖縄のポテンシャルを最大限に生かした「アジアゲートウェイ」を目指して、付加価値の高い沖縄型ビジネスの展開に向けて、沖縄県工業連合会とも手を携えて、意欲のあるものづくり産業の皆様を最大限支援してまいりたいと思えます。

沖縄におけるものづくり産業の更なる発展を実現するためには、ものづくり企業の経営者の皆様方がお互いに腕を磨き合い、刺激を与え合って、その事業活動を活性化していくことが不可欠です。沖縄県工業連合会は、沖縄のものづくり産業を育成し、振興する組織として、柔軟な構想力、確実な実行力、業界におけるリーダーシップを大いに発揮され、沖縄におけるものづくり産業の更なる成長や沖縄経済の自立的発展に大いに貢献していかれることを御期待申し上げます。

最後になりましたが、沖縄県工業連合会と会員の皆さまのますますの御活躍と御健勝、そして沖縄におけるものづくり産業の更なる成長と発展を、心よりお祈り申し上げます。

沖縄県工業連合会会員の皆様におかれましては、「沖縄におけるものづくり産業の育成と振興を図ることによって地域経済の発展と県民生活の向上に寄与する」との会の目的の下に、日頃から企業経営に御尽力いただき、また、経済産業施策にも御理解・御協力いただき、地域の振興や雇用に多大な貢献をされておられることに感謝申し上げます。

沖縄県工業連合会が中心となって開催している「沖縄の産業まつり」は、「時代のニーズに対応した新製品の開発と品質の向上」を図ること等を促進するものであり、ものづくり産業における取組成果の発表の場ともなっております。38回を数えるこの産業まつりが、本年は来場者24万人を超える大盛況の裡に実施されたことに改めて敬意を表します。

ものづくり産業の強みは一般に、①企業間の「ものづくりネットワーク」を通じた地域経済への波及効果、②産学官連携等を通じた技術や新製品開発による持続可能な事業の発展、③量と質の両面において優れた比較的安定的な雇用機会の地域への提供等が期待できることであると言われております。観光産業等の発展に加え、ものづくり産業の更なる成長と発展があつてこそ、沖縄の経済の自立的な発展が成し遂げられるものと確信しております。

しかしながら、近年の社会構造の大きな変化により、企業経営は難しい時代に入ったと言われております。さらに、沖縄においては、復帰後に創業した企業の世代交代の時期を迎えており、事業承継という課題にも多くの企業は真剣に向き合つていくこととなります。困難や時代の変化にも柔軟に対応して



## 第38回 沖縄の産業まつり 第2回実行委員会



10月24日(金)から26日(日)の3日間、那覇市奥武山公園、県立武道館を会場として開催された第38回沖縄の産業まつりの第2回実行委員会の集会在11月25日ANAクラウンプラザホテル沖縄ハーバービューにて開かれました。

沖縄の産業まつりは県産品への消費者意識啓発と製品開発、品質向上促進等を目的として毎年開催されています。前年開催の第37回は台風のため2日間の開催となり、観客動員数も163,000人と減少しましたが、38回目の開催となった今回は快晴に恵まれ、3日間の開催期間で過去最多クラスの244,400人を動員しています。出展数533業者・

団体(屋内展:201、屋外展332)、売上高も1億8,669万円と前年を大きく上回り、県内産業に対する沖縄県民の関心の高さを実証する結果となりました。

恒例となりつつある沖縄県推奨優良県産品展や沖縄県工芸コンテンツ産業活用促進事業PR展などの展示物はスペースを広々と使用し、じっくり見て回ることができたと好評でした。はじめての試みとなる水中可視光通信による水中スパログラムの実演生中継も無事成功。高飛び込みプールを活用した運動プログラムデモンストレーションをアリーナ棟で遠隔中継するという最先端の技術を採用した企画に約70名の来場者が驚きの声を上げていました。

屋外会場でも商工会特産品フェア「ありんくりん市」が会期中総売上高約3,020万円と過去最高を記録。県内外のバイヤー等との商談も多に行われ(商談件数150件)、新たな販路開拓にもつながりました。県産品展示即売会やオリオンビアガーデン、イベント広場でのショーやお笑いライブにも多くの人々が足を運んでいました。イベント広場で開催されたうちなーむんオークションの収益金はNPO法人メッシュ・サポートの活動費として寄付されることとなっており、第2回実行委員会のこ



の日、NPO法人メッシュ・サポート小濱正博理事長に向け、湧川昌秀沖縄の産業まつり実行委員会会長より収益金140,065円の目録が贈呈されました。

今年度の沖縄の産業まつりの実績、収支決算報告を受け、湧川会長は「来場者数、売上高ともに過去最高クラスを記録した実績は来年度以降にもつながる」と振り返り、来年度の開催に向けて新たに意識を高めたいとあいさつしました。



湧川昌秀会長より、NPO法人メッシュ・サポートへ寄付金贈呈も行われました。



各関係団体より次年度に向けて貴重なご意見をいただきました。



# 「地域とともによいことを」 まちとむらをつなぐ取り組み



有限会社 渡具知  
代表取締役 渡具知 豊



写真左:「玄米飲料」は、シリーズも多彩で防腐剤・着色料など一切使用せず、丹念に仕上げた商品。  
写真右:「ノニの黒みつ」は、一般的なハチミツと比較すると、抗酸化力は約5倍!ビタミンC含有量は約10倍!!  
スイーツやアンチエイジング料理に利用できます。

東京で得たスキルと  
独自の発想で地元農家の助けに

有限会社渡具知の創業は1996年。地元名護市の地下水を使用した飲料品等を開発、販売。1995年に発売した「ロンロン」は細長いチューブ型の容器に甘いジュースを詰めたもので、地域の商店で販売されるや子供たちを中心に人気に火がつき、看板商品となりました。その他、玄米ドリンクやシークワーサー飲料など様々なラインナップを有し、その種類は増え続けています。

現在、代表取締役を務める渡具知豊氏は、もともと歯科技工士として大阪、東京などで活躍。沖縄に戻ったからは、県外での経験を活かした事業に取り組んでいます。沖縄のソウルドリンクでもある玄米飲料は、各家庭でおばあちゃんが手作りしていたもので、玄米を挽いたものに甘味を加え、ほんのり生姜などで風味をだした栄養ドリンクです。ある程度の年齢の方にはとても人気のある飲み物ですが、時代とともに作り手も減少する中で、町の牛乳屋さんが牛乳瓶に詰め、販売を始めますが、日持ちがしません。そこで会長(渡具知光雄氏)の考案により、レトルト殺菌をすることで大幅に日持ちがするようになりました。

しかし瓶の形状とキャップの相性が悪く、どうしても不適合品が数本出る中で渡具知氏は、容器の改善と商品の殺菌を徹底的に考え、防腐剤等を使用せずに、大幅に賞味期限を伸ばすことに成功させました。さらに様々なバリエーションの風味の開発も手がけ、本土市場でも人気を集めるほどの商品として成長しました。その他、沖縄産ハバナロや島唐辛子を使った調味料や健康によいとされるノニ商



ニヌファブシ(北極星)とは、航海の時、船の進むべき方向を照らし、教える重要な星ということ、「世の中の目標となる星になりなさい。」という意味も持つ沖縄のことばです。



写真上：  
昔ながらの風味を守りながら、安心・安全な製品をお届けするため、製造ラインは徹底した衛生管理の下、熟練のスタッフによる厳しいチェックを経て出荷されます。

写真右：  
シークワサー果実を丸ごと塩漬けにし練り上げた、香り高い調味料「柑橘香り塩」は「料理王国100選」にも選出されました。



品名護の地下水を使用したミネラルウォーターなど幅広く展開しています。これらの商品は、それまではあまり知られていなかったハバネロや唐辛子といった県産品にスポットが当たったきっかけとなりました。メキシコのユカタン半島が原産とされるハバネロは世界一辛い香辛料として知られていますが、沖縄県産のハバネロはメキシコ産よりさらに辛いといわれています。

「2005年当時、ハバネロをどうにか加工品にできないかと東村の農家から相談されたのをきっかけに開発に乗り出しました。粉末やソースにして、タコライスなどの原料やカレー、マヨネーズに混ぜるなど様々な工夫を凝らして商品を開発しました」

同様に、過剰生産で余っていた県産ノニを使ったジュースやお茶も開発。今年3月に発売したばかりの「ノニの黒みつ」は、使いきれなかったノニを砂糖漬けにして3年間熟成させたところ、独特の甘みが生まれることよって誕生したといえます。

ノニに含まれるスコレチンに血管の若返り作用があると注目されており、ビタミンC、抗酸化作用も持つことから、すでに多くのリピーターを持っていて、さらにノニを使ったせうけんもアトピーや乾燥肌の人にも安心して使えるとして好評だといえます。ノニを搾った後のわずかに残る搾りかすを再利用できないかというアイデアから生まれた商品です。

また、シークワサーが余剰収穫された年には、シークワサー果汁を使用したピアカクテルを発売、提案。独自の発想によって農家の一助となりました。

「天候や環境によってその年の収穫数が増減する場合、農家にとって避けて通れない大きなリスクであり、加工品の原料として保存・販売することによって農家の負担を軽減することができると渡具知氏は話します。農家が不安なく仕事に集中できるような環境づくりを有限会社渡具知の使命とし、社長自ら畑へ足を運び、商品

開発の提案や新しい苗の導入など農家とじっくり会話を重ねながら問題解決へと導きます。生産者と消費者をつなぐため、双方との信頼関係こそもっとも重要な話します。

「ものづくりからことづくりへ」

有限会社渡具知では、これまでOEM(委託生産)を中心に展開してきましたが、今後は自社製品の開発にも力を入れていきたいと渡具知氏は熱意を見せています。

「やはり地元食材にはこだわりたい。屋我地島の塩や羽地米など、本島北部にはまだまだ広く知られていない素材がたくさんあります。これらの素材を農家に代わり広めていくのが今後の目標です」

たとえば、屋我地島の塩は、潮の満ち引きの差を利用して海水を塩田に引き入

れ、毛細管現象によって砂を湿らせたのち、太陽熱と風で塩を作る「入浜式製塩法」と、その塩田が日本で唯一、残された地域であることから、後世に引き継ぐべき貴重な文化といわれています。

また、羽地地域は一時、「沖縄県内すべての腹を満たす」といわれていたほどの米どころとして知られており、現在はかつて行われていた三期作を復活させる動きも見られるといえます。

渡具知氏は故郷沖縄への思いをこめ、「一言で沖縄県北部といっても、それぞれの市町村に特徴や歴史がある。『名護市一町四村物語』として各地の物語をつないでいくような仕事ができれば」とし、これまでは商品づくりに注いできた情熱を今後は農家の思いや地域の物語を消費者に伝えるための工夫に傾けたいと、「ものづくり」から開発事業などの「ことづくり」への転換を目標としています。

Corporate Profile

### 有限会社 渡具知

業 種 沖縄特産品製造・加工・販売  
清涼飲料製造販売  
冷菓・氷菓製造販売

設 立 1995年

代 表 者 渡具知 豊

住所・連絡先 沖縄県名護市東江2-8-43  
TEL:0980-54-0063  
FAX:0980-52-1613  
http://www.ryukyuyakuzen.com



# ちばりよ〜県産品

## 農業生産法人 株式会社今帰仁ざまみファーム

●今帰仁村字上運天1233-1  
TEL 0980-51-5182・FAX 0980-51-5183  
http://zamamifarm.com



沖縄は薬草の宝庫。その中にある「クワンソウ」は、沖縄県が指定した沖縄伝統野菜 28 品目のひとつです。

## 沖縄の伝統野菜 クワンソウで地域貢献

沖縄自生の薬草として琉球王朝の時代から珍重されてきた伝統野菜クワンソウ(アキノワスレグサ)。琉球最大の国家行事「冊封の儀」において皇帝の使者「冊封使」の歓待料理に使用されるなど歴史も古く、沖縄伝統野菜 28 品目のひとつに指定されています。

睡眠導入やリラククス効果が高いとされ、別名「眠り草」ともよばれるほか、眠りにつけない夜や疲れ気味のときに炒めものや煮物にして食べる習慣が記録として残されています。

沖縄県産野菜として長く親しまれながらも、「ゴーヤーやハンダマーなどほかの野菜に比べて全国的な知名度はまだそれほど高くないクワンソウをより広めようと、様々な商品が開発されています。

農業生産法人株式会社今帰仁ざまみファームではクワンソウの栽培、商品開発、販売を手掛けており、クワンソウを使用したハーブティーや黒糖、ちんすこうなど様々な加工商品を開発しています。

沖縄クワンソウ普及協会理事も務める座間味久美子代表は、今帰仁村や関連団体との連携によって、「癒しの里今帰仁 ねむりと農業と観光の高

度化プロジェクト」にも参加し、クワンソウを利用した村の活性化にも積極的に取り組んでいます。その功績等が認められ、昨年開催されたおきなわ花と食のフェスティバル2013(奥武山会場)にて「農山漁村地域活性化」の表彰も受けています。

現在では商品の種類も増え、来年にはクワンソウの花を使用したピクルスやジュレの販売も予定されています。開発を進める一方で、観光にも力を入れており、クワンソウの花摘み体験や畑の傍らに設置したミニ牧場でのポニーとのふれあい体験といった家族で楽しめる企画やイベントも実施予定だとしています。

「睡眠やリラククス効果を持つ野菜は世界的にも少なく、クワンソウへの注目度は上がっています。クワンソウの効果やおいしさをもっと知っていたくことで地元今帰仁村ひいては沖縄県への貢献にもつながれば」と座間味氏は語り、ストレスや生活リズムの乱れによって鬱障害や不眠に悩む人の多い現代社会においてクワンソウ商品を広めていきたいと熱意を表現していました。



農業生産法人  
株式会社今帰仁ざまみファーム  
代表取締役 座間味久美子氏

無農薬と今帰仁の豊かな自然で育て、安心・安全・高品質なものを安定して提供していくため、栽培から一次加工までのフローの確立と地域の農家さんとの連携を強め、地域ブランド「今帰仁クワンソウ」として、販売しています。





# 新うちな一むん紹介

## 新城工作所

●浦添市大平1-28-9

TEL.098-878-2661 <http://www.uta34.com>

三線以外にも、厚生労働省認定「現代の名工」を受賞した新城代表による一貫した自社生産のエイサー太鼓は「沖縄県推奨優良県産品」として人気が高い。



## 三線の常識を覆す 独自の材質とデザイン

琉球王朝時代から現代にいたるまで沖縄文化を代表する楽器として広く親しまれている三線。浦添市、名護市に工房を持つ新城工作所で製作される三線は、沖縄県推奨優良県産品、厚生労働省認定現代の名工など数々の賞を受賞。やさしい音色と手にしつとりと吸い付く質感が多くの人々に愛されています。

棹には最高級の黒木をはじめ、イスノキ(ユスギ)など沖縄県産の材質にこだわっています。三線の材質にはニシキヘビの皮を使用するのが一般的ですが、新城工作所では蛇皮の代わりに博多織を使用した独自のデザインを開発・販売しています。

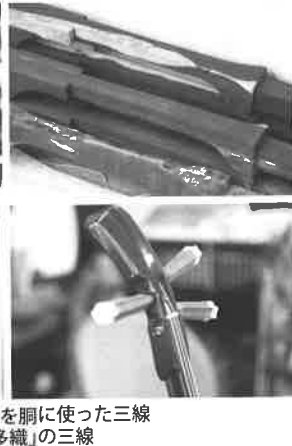
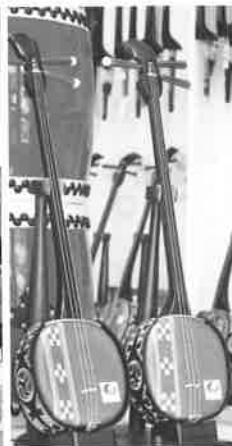
新城工作所代表者新城伸治氏は、「女性や県外のお客様の中には蛇が苦手な方も多く、三線を弾いてみたいけれど蛇皮にふれることに抵抗があるという意見をいただくことがありました。そういった方々が三線を手にする機会を増やしたいという思いからこのような材質、デザインを作り上げました」と語ります。

蛇皮に代わる材質を探し求めるも、人工皮やビニールでは空気の抜けが悪く、三線特有の心地よい音の余韻がうまく表現できず、苦悩している中、九州の博多織に着目。新城氏自ら福岡

へ出向き、現地の職人と共同開発によって蛇皮に限りなく近い材質を生み出しました。柄には伝統工芸品の文様としてやはり琉球の歴史を表現するミンサー柄を取り入れ、沖縄らしさも残しています。動物愛護の意識が高い外国客にも受け入れられ、三線の文化をさらに広めるきっかけとなりました。平成15年には秋篠宮殿下、妃殿下が工作所を訪問。博多織とミンサー柄を使用した三線を手にされた両陛下より熟練の技を賞賛する言葉を受けました。

「戦後、何もない時代に沖縄の人々は空き缶と絃(電話線をばらした鋼鉄の細い線)を使って簡易的な三線を作り、苦しい時代を歌で乗り越えました。そうしてできたカンカラ三線も三線の歴史の一部です。伝統はもちろん大切に守るべきですが、そればかりにとらわれていては未来はない。時代やニーズに合わせて進化していく必要があります」と話す新城氏。

もともと家具や木工品の職人としてキャリアをスタートさせたからこそ独自の視点で三線作りに取り組みむことができるといいます。後進の育成にも意欲的で、三線作り教室も定期的に開催。三線の文化を後世に伝えるため、日々力を尽くしています。



写真左：一般的な「ニシキヘビ皮」を胴に使った三線  
写真右：自社開発で誕生した「博多織」の三線

新城代表(前列右)とスタッフの方々

# 高校生美ら産フェア

## 第18回 沖縄県産業教育フェア

●日時：平成26年11月14日（金）・15日（土）  
●会場：県立武道館、沖縄国際ユースホステル、那覇港



沖縄県教育委員会教育長  
諸見里 明氏



沖縄県副知事  
高良倉吉氏



沖縄県産業教育振興会会長  
安里昌利氏

### スローガン 果てなき探求 膨らむ創造力が 未知なる未来への招待状

県内の専門高校、特別支援学校の生徒が日頃の学習の成果を披露することを目的に毎年開催されている高校生美ら産フェア・沖縄県産業教育フェアが今年も11月14日、15日の2日間に渡って開催されました。今年度は42校約2,000人の生徒が参加し、会場は朝から学生たちと多くの来場者でにぎわいました。

14日に行われた総合開会式では、沖縄県教育委員会 諸見里明教育長、高良倉吉 沖縄県副知事、沖縄県産業教育振興会 安里昌利会長他、各界から訪れた来賓が生徒たちを激励しました。高校生を対象に募集したポスターデザインとスローガンの優秀賞受賞者への表彰も同時に行われています。

今年度のポスターの部には沖縄県立未来工科高等学校コンピュータデザイン科2年奥田柚有さん、スローガンの部では沖縄県立南部商業高等学校情報ビジネス科3年新垣聖羅さんの作品がそれぞれ最優秀作品として選出されています。今年度のスローガンは「果てなき探究 膨らむ想像力が未知なる未来への招待状」となっており、高校生が持つ無限の可能性と未来に

向かって進化しようとする意欲が表現されていることが評価されました。

メイン会場となった沖縄県立武道館ホールには生徒が制作した日用品や工業製品などの作品が展示され、工業、商業、農業、水産など数多くの分野の展示品が来場者の関心を引いていました。

農業部門では、県内6校の農業系高校23学科の特徴的な取り組みと学科紹介を展示。作物や園芸、加工食品等を販売しました。また、特設ステージにおいて日本学校農業クラブによる研究発表会が行われ、日本学校農業クラブ全国大会の様子及び成果を生徒代表が発表しました。特設ステージではさらに沖縄工業高等学校、沖縄水産高等学校の代表による高校生研究発表と高校生ファッションショー、珠算模範演技等も行われています。

毎年個性的な感性と演出により注目を集める高校生ファッションショーは「A・i・b・u・m」時代を歩むキセキ達をキャッチフレーズとし、「自分が生きている奇跡、そして人々が歩んできた軌跡を感じてもらいたい」と壮大なテーマを持つ独創的なショーを作り



ファッションショー



●日本学校農業クラブ全国大会沖縄大会実施報告



●珠算模範演技

345,79
1,80
54,62
682,57
4,506,24
8,91
21,39
937,12
7,103,41
10,72



●ロボット競技操作体験



●商業デパート



●キッズビジネスタウンin 高校生美ら産フェア



●各部門即売コーナー



●「高校生の進路を考える」フォーラム



●水産高校実習船一般公開(海邦丸5世)



●沖縄タイムスビル1階エントランスホール

上げました。

珠算模範演技では、県内商業高校珠算部の生徒が大型モニターを用いたフラッシュ暗算に挑戦し、日頃の練習の成果を見せていました。

その他、高校生制作のロボットが対決する「ロボット相撲」や繊細な操作を要するアイデアロボットのパフォーマンスも人気で人だかりを作っていました。ロボットを操作してお菓子を手に入れる「ロボット操作体験」に挑戦する子供の姿も多く見られ、ものづくりへの関心を集めることに成功していました。

「Androidアプリ開発体験」、「教育用語マインドストーム体験」、「合成写真の作成」等、情報機器やソフトウェアに実際に触れてITに親しむ体験コーナーの種類も豊富に用意されており、来場者が普段触れることのない精密機械を身近に感じるきっかけとなりました。

錬成道場で開催された商業デパートでは商業高校の生徒が中心になって様々な日用品や食品を販売。それぞれにアイデアと工夫を凝らして目標売上達成に向けひたむきに努力する姿が印象的でした。

2階ではキッズビジネスタウンも開催され、参加した子供たちはパイロットやアナウンサー等憧れの職業を体験しました。体験後には給与として

お菓子も受け取り、労働の達成感と対価を手にする喜びに目を輝かせていました。

その他、那覇港では水産高校実習船(海邦丸5世)が一般公開されました。沖縄国際ユースホテル大研修室では「高校生の進路を考える」フォーラムが開催され、社会人として企業に勤務する先輩たちの体験談を聞くことで、高校生が自らの進路や目標を考えるきっかけとなりました。

沖縄タイムスビル1階エントランスホールでは農業部門の即売会や那覇商業高校によるカフェが設置された他、各部門を紹介するパネルの展示も行われました。

今年度は2日間とも穏やかな秋晴れで、遠方から訪れたという来場者も多く、展示品販売の売上も好調だといえます。高校生にとっても大きな経験となったようで、ファッションショーを披露した那覇工業高校服飾デザイン科の生徒は「納得がいかなかったところもあったけど、みんなでひとつのものを作り上げ、たくさんの人に成果を見てもらえたことはよかった。準備も含めて大変なこともあったけどやってよかったと思う」と感想を述べていました。未来の沖縄県の産業を支える力となる高校生のポテンシャルを感じさせる2日間となりました。



# JAS法食品表示講習会

平成26年11月18日(火) 沖縄産業界支援センター



独立行政法人  
農林水産消費安全技術センター  
福岡センター  
主任調査官 安達賢司氏



独立行政法人  
農林水産消費安全技術センター  
福岡センター  
専門調査官 中村光也氏



沖縄県南部福祉保健所  
生活衛生課  
技師 山下将哉氏



JAS法に基づく食品表示制度を周知し、事業者による表示違反の事前防止を図るとともに、消費者が食品を購入する際に正確な情報を取得した上で選択できるよう、食品表示の適正化を目的に「JAS法食品表示講習会」が開催されました。

石垣・宮古の離島を含め沖縄県内5会場で開催された講習会には、加工食品製造業、食品小売業、食品仲卸売業といった食品関連事業者、農業関連事業者、市町村等自治体職員が多数参加しています。

JAS法（農林物資の規格化及び品質表示の適正化に関する法律）は、飲食品等が一定の品質や特別な生産方法で作られていることを保証する「JAS規格制度（任意の制度）」と、原材料、原産地など品質に関する一定の表示を義務付ける「品質表示基準制度」からなり、国内で販売されている飲食品には、この法律に基づいてJASマークや原産地が表示されています。

平成21年に食品の産地偽装に対する直罰規定が創設される等、時代に応じて改正されており、消費者が安心して商品を購入するため、生産者にとっては必要不可欠な知識となっています。

独立行政法人農林水産消費安全技術センター福岡センター主任調査官安達賢司氏によるJAS法に基づく食品表示の制度についての講習では、JAS法の概要をはじめ施行令や施行規則について解説されました。

同事務所専門調査官中村光也氏の解説による演習も行われ、実際の食品表示例に基づいた演習問題を解き、指定された条件に合わせて生鮮食品のポップ表示や加工食品のプライスラベルを作成。より具体的かつ実践的な知識を得ることができました。

また、沖縄県南部福祉保健所生活衛生課技師山下将哉氏による健康増進法と食品表示に関する講習もあり、国民保健向上を図る健康増進法について解説されました。長寿県復活を目指す沖縄県にとっても非常に重要な法律であり、今後さらに注目されると思われれます。

食品の安全について関心が高まっている昨今、JAS法や健康増進法といった食品に関わる法律の知識は事業者のみならず一般消費者にも必要とされています。安心・安全な食品を提供・購入するための意識向上にもつながる有意義な講習会となりました。

# 改正後のパートタイム労働法の概要

(改正法は平成27年4月1日施行)

※下線部は、平成26年の法改正により改正される部分

パートタイム労働者がその有する能力を一層有効に発揮することができる雇用環境を整備するため、パートタイム労働者の納得性の向上、正社員との均等・均衡待遇の確保、正社員への転換の推進等を図る。

## 1 労働条件の文書交付・説明義務

- 労働基準法上の文書交付義務に加え、昇給、退職手当、賞与の有無及び相談窓口について、文書の交付等による明示を事業主に義務付け(過料あり)(第6条)
- パートタイム労働者の雇入れ時に、講ずる雇用管理の改善措置の内容(賃金制度の内容等)の説明を事業主に義務付け(第14条第1項)
- パートタイム労働者から求めがあった場合に、待遇の決定に当たって考慮した事項の説明を事業主に義務付け(第14条第2項)
- パートタイム労働者からの相談に対応するための体制整備を事業主に義務付け(第16条)

## 2 均等・均衡待遇の確保の促進

- 広く全てのパートタイム労働者を対象として、パートタイム労働者の待遇について、正社員の待遇との相違は、職務の内容、人材活用の仕組み、その他の事情を考慮して、不合理と認められるものであってはならないとする「短時間労働者の待遇の原則」を規定(第8条)
- 正社員と同視すべきパートタイム労働者について、差別的取扱いを禁止(第9条)  
※「正社員と同視すべきパートタイム労働者」  
:職務内容及び人材活用の仕組みが正社員と同じパートタイム労働者(無期労働契約要件を削除)
- その他のパートタイム労働者について、賃金の決定、教育訓練の実施及び福利厚生施設の利用に関し、多様な就業実態に応じて、正社員と均衡のとれた待遇の確保に努めることを事業主に義務付け(第10条～第12条)

## 3 通常の労働者への転換の推進

- 正社員の募集を行う場合のパートタイム労働者への周知、新たに正社員を配置する場合のパートタイム労働者への応募の機会の付与、正社員への転換のための試験制度等、正社員への転換を推進するための措置を事業主に義務付け(第13条)

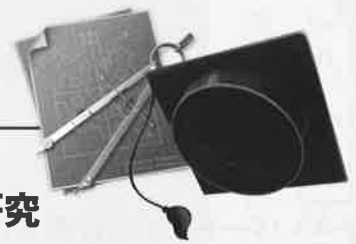
## 4 苦情処理・紛争解決援助

- 苦情の自主的な解決に努めるよう、事業主に義務付け(第22条)
- 義務規定に関し、都道府県労働局長による紛争解決援助及び調停を整備(第23条～第26条)

## 5 実効性の確保

- 都道府県労働局長(厚生労働大臣から委任)による報告の徴収、助言、指導及び勧告(第18条第1項)
- 報告拒否・虚偽報告に対する過料の創設(第30条)
- 厚生労働大臣の勧告に従わない場合の事業主名の公表制度の創設(第18条第2項)

# 琉球大学工学部後援会からのお知らせ



## 既存コンクリートブロック塀の構造安全性に関する調査研究

琉球大学工学部環境建設工学科・准教授 中田 幸造 (なかだ こうぞう)

琉球大学工学部環境建設工学科・教授 森下 陽一 (もりした よういち)

### 【背景と目的】

コンクリートブロック塀(以下CB塀と略す)とは、配筋のための空洞を持つコンクリートブロックを鉄筋で補強して組積した塀のことである。CB塀は主に建築物の敷地内環境の保護を目的に隣地や道路境界付近に建設されるので、建設時には頑丈で安全性を高くしなければならないが、その工法が単純であることから安易に建設されている。耐震性に乏しいCB塀は地震時に倒壊する危険性が高く、人が倒壊塀の下敷きになる直接的な人的被害や、倒壊塀が歩行者や緊急車両の通行の障害となり避難や救護の遅延を招くなど、間接的な人的被害を引き起こす危険性がある。CB塀の被害報告は過去の地震においても数多く、中でも1978年宮城県沖地震においては、多数のCB塀が被害を受け、この地震による全死者28名の約2/3にあたる18名がCB塀や門柱などの倒壊による犠牲者であったという報告は、CB塀の耐震化の必要性を述べるうえで重要である。本研究では、地域地震防災の観点からCB塀の耐震安全性の向上を図ることを目的として、沖縄県那覇市におけるCB塀の構造の実態を調査したので、その概要を紹介する。なお、本研究は本土の一例である大分県大分市のCB塀の実態との比較のため、大分大学菊池研究室と同様の手法により調査を行った。

### 【調査対象】

CB塀による事故は、高齢層と小学生以下の年齢層に多いため、小学校の周辺を調査対象区域とした。用途地域のうち、第一種住居地域、商業地域、第二種中高層住居専用地域において、それぞれ城岳小学校、神原小学校、真嘉比小学校を選定し、小学校の正門から半径250mの円内を調査対象モデル区域とした。

### 【調査方法】

対象区域内の認定道路のうち、道路幅員が10m未満の道路沿いに面し、塀の高さがブロック3段(60cm)を超えるCB塀を調査対象とした。調査は塀の高さ、長さ、厚さ、配筋の有無等、合計32項目である。今回の調査では293件の塀を調査した。

### 【CB塀の調査結果概要】

CB塀についての構造規定である建築基準法施行令第62条の8(以下、法令と略称)の概要を図1に示す。図2には法令の規準を満たしていないCB塀(法令不適合CB塀)の割合を項目別に示した。高さや厚さの項目では法令不適合な塀の割合は少ないが、縦筋、横筋、壁頂横筋、控壁の項目ではいずれも約9割の塀が法令不適合である。今回の調査において完全に法令の規準を満たしているCB塀は全く存在しなかった。

### 【まとめ】

今回調査したCB塀の全てが法令に違反していた。特に縦筋、横筋、壁頂横筋、控壁の4項目で違反が目立っている。これらの項目は耐震性能に直接関係する項目であり、迅速な対策が必要である。今後もCB塀の実態調査を継続し、微力ながら安全・安心な地域の実現に少しでも貢献できればと考えている。

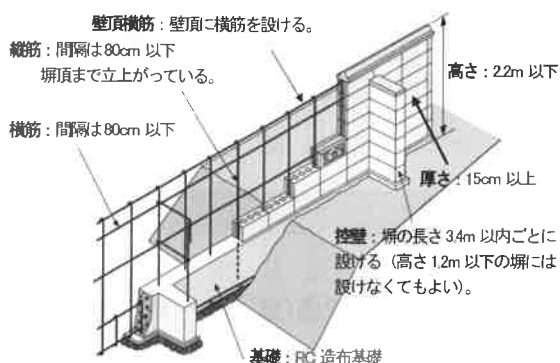


図1 建築基準法施行令第62条の8の概要

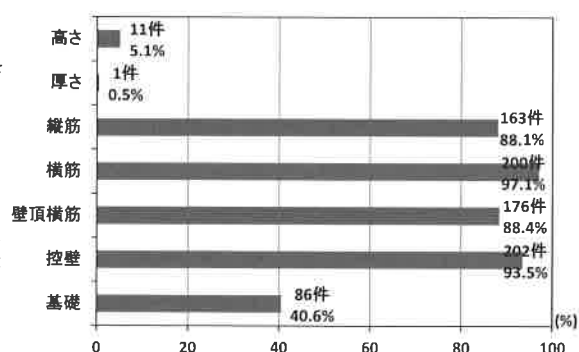


図2 法令不適合なCB塀

### お問合せ先

琉球大学工学部後援会事務局(環境建設工学科内)

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町千原1番地

TEL:098-895-8655・8676 FAX:098-895-8677 E-mail: k-nakada@tec.u-ryukyuu.ac.jp(中田)





2014  
**沖縄ポリテクビジョン**  
おきなわ



テーマ：—「沖縄発 ものづくり・人づくり」—

先月11月16日の日曜日、「沖縄発 ものづくり・人づくり」をテーマに、沖縄ポリテクビジョン2014を開催しました。当日は、県内各地から2,200名あまりの来場者があり、ものづくり体験コーナーや学生エイサー、株式会社近代美術の榎本伸司氏及び株式会社レキサスの安谷屋栄氏による電子書籍の未来とスマホをかざすと未知の世界が広がるAR絵本についての記念講演など、色々な催し物でにぎわいました。特に、ものづくり体験コーナーでは、子どもたちの真剣な表情で作業を進める姿を目の当たりにして、将来の沖縄県のものづくり人材育成に期待が持てる一日となりました。当日の様子を紹介します。

各科ものづくり体験コーナー



ものづくり体験 (完成品)



板金による「くわがた」づくり

手作りホパークラフト

缶バッチの制作

電子ホタル

学生によるエイサー演舞



記念講演会 (安谷屋 栄氏、榎本 伸司氏)



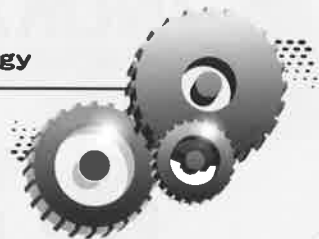
❖地域企業の皆さんと一緒に「ものづくり」を行っていきたくと考えています。技術的相談等お気軽にお寄せください。❖

お問合せ先

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 **沖縄職業能力開発大学校** (援助計画課 大根)

〒904-2141 沖縄県沖縄市池原2994-2 TEL. 098-934-6282・FAX.098-934-6287

<http://www3.jeed.or.jp/okinawa/college/> ●メルマガ会員募集中 <http://www.jeed.or.jp/merumaga/index.html>



## 「第10回 沖縄高専フォーラム・情報交換会・技術相談会」を開催しました

沖縄高専では、11月21日(金)に那覇市内のホテルにおいて「第10回沖縄高専フォーラム・情報交換会・技術相談会」を開催しました。

今回の沖縄高専フォーラムは、昨年、第1期生受け入れから10年目の節目となる記念事業を無事挙行したのを受け、「沖縄高専との連携をとおして」をテーマに、県内行政機関、金融機関、連携企業それぞれの視点から沖縄高専の意義、果たしてきた役割、これからの沖縄高専に期待することなどについて講演を開催しました。

長年にわたり沖縄高専を支援して下さった沖縄工業高等専門学校産学連携協力会会長・湧川昌秀氏の挨拶につづいて、講演者に、内閣府沖縄総合事務局経済産業部長・牧野守邦氏、株式会社トリム代表取締役会長・新城博氏、HAYABUSA株式会社代表取締役社長・麻生佳哉氏、沖縄振興開発金融公庫新事業育成

出資室長・砂川則夫氏の4氏をお迎えし、沖縄をとりまく経済環境、今後の経済戦略や資金面からの融資制度、沖縄高専に期待することなど多くのご意見、ご提言をいただきました。

これからの新たな一歩を踏み出すにあたり、沖縄高専はどうあるべきか、沖縄高専が沖縄の産業及び北部地域、沖縄県全体の発展に寄与する期待感は、今後の沖縄高専の取り組みについて考える糧となり、有意義で貴重なフォーラムとなりました。

フォーラム終了後に行われた情報交換会・技術相談会の会場では、教職員紹介、本校専攻科生の研究成果ポスター発表が行われ、出席者は和やかな雰囲気の中で交流を深め、本校への県内における産学及び行政機関、金融機関との産学官金連携の推進を期待する声が多く寄せられました。



フォーラムで開会挨拶をする伊東校長



講演の様子



沖縄高専教員による自己紹介



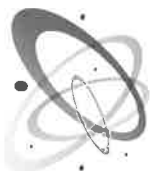
専攻科生による研究成果発表の様子

### お問合せ先

沖縄工業高等専門学校産学連携協力会事務局(担当:喜屋武)

〒905-2192 沖縄県名護市字辺野古905番地

TEL:0980-50-0133 / FAX:0980-55-4012 E-mail:sangaku@ml.cosmos.ne.jp



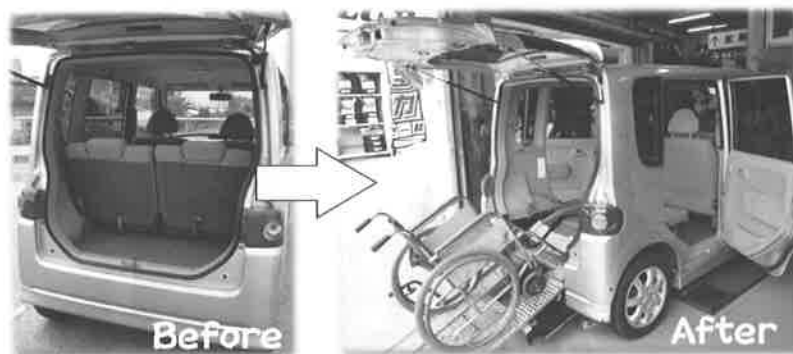
# 工業技術センターだより Okinawa industrial technology center



前回の技術支援事例紹介に続き、スローパーの開発を紹介致します。

## あなたの車が福祉車両に!?

— 車いす乗降用後付けスローパーの開発 —



### 背景

突然ですが、あなたやあなたの身近な方々に車いすが必要になったことを想像してみてください。近くのコンビニや病院、ちょっとした遠出の際の移動手段はどうしますか？ 多くの方が「車で移動する」ことを想像することでしょう。でも、「車いすを載せることができる車を買う経済的な余裕がない」とか「今現在使っている車をどうにか改造できないかな？」など困っている方々の意見を耳にしました。

### 内容

そこで、**タイランド沖縄**を中心に**新垣钣金**と**沖縄県工業技術センター**が研究チームを作り【使用中の車を改造して車いすを載せることができる車両】の開発に取り組みました。開発車両には**ダイハツ製タント**を選びました。

車いすをスムーズに移動できるスロープを取り付けるために後部座席を外して、床面とバンパーをカットして新しい床と開閉できるバンパーを作りました。

このような改造した車両が一般道を走るためには、車両に十分な強さがあることを証明して車検をクリアしなければいけません。そこで、沖縄県工業技術センターでは車体の強度を測定しました。その結果、車体の強度をほとんど変化させずに改造できたことがわかりました。

### 成果

使用中の車を福祉車両に変更する改造技術や、車体に発生するひずみから強度を推定する技術を構築し、車検をクリアすることができました。



### 今後の展開など

完成した車両を関係福祉団体等の方々に使っていただき、ご意見やニーズを多く集めて改良を重ね、より良い製品をお届けできるようできるだけ早く事業化する予定です。

### お問合せ先

**沖縄県工業技術センター 企画管理班(担当:花ヶ崎)**

TEL:098-929-0111 FAX:098-929-0115 E-mail:hangskit@pref.okinawa.lg.jp





## 沖工連青年部会 会員募集中!

青年部会は親睦会や勉強会等の活動を通して、工業界の青年層が気軽に情報交換できる会を目指しています。

- 加入資格 / 公益社団法人沖縄県工業連合会会員の役員及び従業員で45歳迄
- 会費 / 入会金10,000円、年会費20,000円
- 会員数 / 22名(2014年9月現在)



お問合せ先:公益社団法人沖縄県工業連合会 TEL.098-859-6191 (担当:小浜)

## 公益社団法人沖縄県工業連合会 会員募集のご案内

公益社団法人沖縄県工業連合会は、昭和28年5月に「沖縄県における工業の育成及び振興を図り、もって県経済の発展に寄与する」ことを目的に創立されました。現在では、製造業を中心に約400社の会員を有し、毎年7月の「県産品奨励月間」や「沖縄の産業まつり」などを

とおして、県内製造業並びに関連産業の振興発展に寄与するため鋭意努力しております。本会の主旨に賛同していただける方なら規模の大小は問いませんので、ご入会をお待ちしております。お気軽に事務局までお問合せください。

### 会員への主なサービスならびに特典

- 機関誌「工連ニュース」や電子メール等による各種情報サービスの提供
- 経営者や従業員を対象とした講習会、技術・経営セミナーなどの案内
- 公設試験研究機関との連携による技術力向上に関する事業などへの参加
- 県産品奨励月間事業(7月)における国・県・市町村、食品・建材大口需要者などに対する要請活動への参加
- 「県産品マーク」の取得
- 本会のインターネットホームページによる会員企業の紹介
- 「沖縄の産業まつり」の出展料の優遇
- 従業員表彰制度の活用(優良従業員・創意工夫功労者・優秀技能者)
- (一社)沖縄県発明協会との連携による産業財産権に関する情報提供など



## 会員の皆様へ 「工連ニュース」で自社の商品をアピールしてみませんか?

会員の皆様方には平素より本会機関誌「工連ニュース」の事業活動についてご理解・ご協力を賜り衷心より感謝申し上げます。

「工連ニュース」では会員サービスの一環として会員の新品などを紹介するコーナーを設けています。事業のPR、新商品の紹介などに積極的にご利用下さい。



●お問合せ先

公益社団法人沖縄県工業連合会 TEL.098-859-6191 担当:座間味

# 経営改善計画書を作ろう!

現在、税理士、中小企業診断士等、国が認める専門家の支援を受けて経営改善計画書を策定する場合、専門家に対する支払費用の2/3を負担する事業を実施しています。

こんな方にお勧めです

金融機関への返済条件等を変更し、資金繰りを安定させながら、

- 売上を増加させたい
- 業況悪化の根本的な課題を見つけたい
- 人件費以外でコストを削減したい
- 従業員に会社の方向性を示したい
- 黒字体質の企業に転換させたい
- 計画策定後も継続的にフォローアップをお願いしたい

## Q.経営改善計画書を作ると、どのようなメリットがあるのでしょうか?

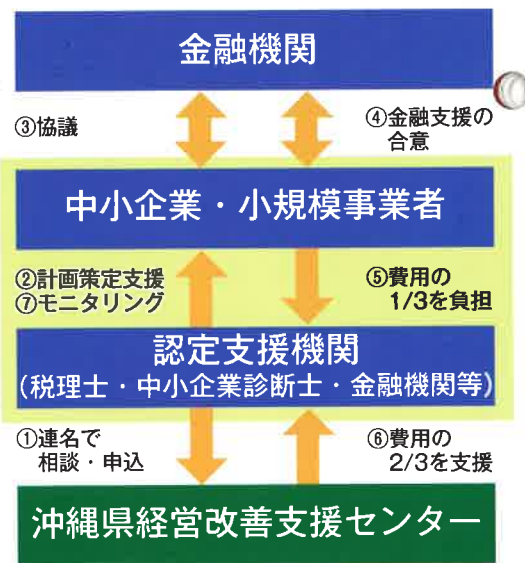
- A** 以下のようなメリットがあります。
- ① 業況の改善(売上増加、コスト削減)
  - ② 金融支援の更改(返済条件の緩和等)
  - ③ 金融機関、取引先からの信頼性が確保
  - ④ 従業員のモチベーションや生産性が向上

## Q.計画書をどのように作成したらいいか、分かりません。

- A** メイン金融機関にご相談いただき、専門家を紹介していただくたり、顧問税理士にご相談いただき、これらの専門家と一緒に作成していただく方法があります。  
本制度を活用した場合、その専門家費用の2/3について、国が負担します。



## 利用イメージ図



## 事例 飲食業 顧問税理士に経営改善計画の作成を依頼

**問題点** 品目を増やし売り上げを伸ばしたものの、利益増加に繋がらない。恒常的に運転資金が不足しており、借入金の資金繰り調達が煩雑であり、支払利息負担も大きい。

### 経営改善計画の主な内容

- 経営戦略・営業戦略の見直し
- 高利益率品目の販売強化施策の実行
- 資金繰り管理の実施(税理士と連携)
- 計数・借入金返済計画

### 計画策定の効果

- 品目ごとに収益性を把握し、人件費以外に新たなコスト削減余地を見出す。
- 売掛・買掛金のズレの発生タイミング・原因が判明し、資金繰り解消に目処がつく。

品目ごとに適切な価格設定の方法が分かった。収益性が改善し、長期借入金の返済にも目処。資金繰り懸念を解消した。税理士に資金繰り管理を支援してもらい、本業に専念。銀行とコミュニケーションが取れるようになり、金融支援につながった。

社長の声

## 認定支援機関の税理士・中小企業診断士等各専門家の方々が支援致します。

本事業の対象となる事業者は、借入金の返済負担等の影響による財務上の問題を抱えており、自ら経営改善計画書等を作成することが難しいものの、経営改善計画の策定支援を受けることにより、金融機関からの支援(条件変更や新規融資等)が見込める中小企業・小規模事業者になります。

経営課題やその解決策等について積極的に「ご相談」することが「経営改善」・「事業再生」に向けての第一歩になります。

お問い合わせ・ご相談

那覇商工会議所 沖縄県経営改善支援センター

Web <http://nahacci.or.jp/saisei/>

TEL 098-867-6760

住所 〒900-0033 那覇市久米2-2-10(那覇商工会議所4階)

FAX 098-867-6773

沖縄県経営改善支援センター

検索



# 麦芽100% 贅沢なうまさの



Risa Nakama



## 大好きな沖縄の おいしい春を届けたい。

沖縄から、日本一早い春の訪れを告げる  
オリオンいちばん桜。  
オリオンビールの商品の中でも  
華やかで、沖縄らしくとても好きです。  
いちばん桜のイメージキャラクターの話の頂いたときは、  
思わず飛び上がりました。  
私にも春が来たな！って感じで（笑）  
家族や地元の友だちもすぐ喜んでくれています。  
沖縄の鮮やかなピンク色の緋寒桜は明るくて華やかで  
見ているだけでウキウキと元気にさせてくれます。  
桜前線とともに、いちばん桜が全国に広がっていったら  
うれしいな、なんて秘かに思っています。



飲酒は20歳になってから。飲酒運転は法律で禁止されています。  
妊娠中や授乳期の飲酒は、胎児・乳児の発育に悪影響を与えるおそれがあります。お酒はおいしく、適量に。

のんだあとはリサイクル